

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 2月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172500241		
法人名	有限会社 スローライフ		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	余市郡余市町美園町199番地 (電話) 0135-22-7727		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価確定日	平成22年3月12日

【情報提供票より】 (平成22年 1月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	9人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円	
敷金	有 ( 円) ・ <del>無</del>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 1月 31日現在 )

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	73 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林病院、わたなべ内科、荒木歯科、老健よいち
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に開設し、リンゴ・ブドウ等の果物畑に隣接し、花が咲き、果物が色付き、香り漂う四季折々の季節感を楽しめるグループホームです。理念のキーワード「笑顔」が物語る健やかで生き活きとした毎日を追求する利用者本位の介護計画を作成し、適切なチームケアをもとに生活支援が円滑に行なわれています。地域住民の方々との関係強化に努め、クリスマス会や餅つき等のホーム行事には、ボランティアや運営推進委員を始め地域住民の方々も参加し、双方向的関係が築かれています。ホームの食事は、栄養士により栄養バランスが取れ、食欲を促がす彩・ワンプレートの盛り付けなど、美味しい食事の提供が行なわれていることも特記すべき特徴の1つです。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題の「地域密着型サービスとしての理念」の策定については、運営法人の理念は掲げていますが、職員全員で話し合いを行ない、基本理念として「笑顔・元気・最後まで地域で暮らす」とし、地域との関係性の強化に努めています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員により、評価項目毎に「取組の実施状況」と「取り組んでいきたい内容」について話し合いを行ない、話し合った内容を計画作成者が整理し、纏めたものを職員全員で確認し、質の向上に繋げています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の設置に関するホームの基本方針により委員を委嘱し、行政職員・地域住民・有識者を構成メンバーに平成18年から2ヵ月毎に開催しています。利用者の様子や行事・地域との関わり・外部評価などについて報告し、意見をいただき質の向上に繋げています。委員はホームの各種行事にも参加し、実施状況を通して建設的な意見を述べています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情処理に対するホームの方針はありませんが、国保連合会や行政の苦情申し立てのポスターを掲示し、関係書類にはホームと公的機関の苦情申し立ての機関を明示しています。職員は何でも言っただけの雰囲気作りに努め、苦情表現を呼びかけています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、祭りを始めとする町内会諸行事には利用者・職員ともに参加しています。また、クリスマス会や餅つき・流しソーメンなどのホーム行事には、ボランティアや運営推進会議の委員を始め、地域の方々の出席をいただき、活発な交流が行なわれ双方向的な関係が築かれています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年の開設時に掲げた理念のキーワード「笑顔」が物語る健やかで生き活きた毎日を追求し、今日に至っています。地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念の策定はされていませんが、地域との関係性の強化に努めています。	○	現理念に加えて、地域密着型サービスとしてのホームの役割を明確にし、利用者の地域生活を支える理念をもとに、方針・目的を具現化し、さらなるサービスの提供を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に対する基本姿勢は居間に提示し、朝・昼のミーティング時に共有意識を深めています。日々の介護実践にあたっては理念に立ち戻るなど、理念の共有体制はできています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、祭りを始めとする町内会行事に参加しています。また、クリスマス会や餅つきなどのホーム行事には、ボランティアや運営推進会議の委員を始め地域の方々をご案内し、出席いただき交流を通して双方向的関係を築いています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が一堂に会し、評価項目ごとに「取り組みの実施状況」と「取り組んでいきたい内容」について話し合いを行ない、計画作成者が内容を整理し、纏めたものを全員で確認し、質の向上に繋げています。		

余市町 グループホーム こもれび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置に関するホームの基本方針のもとに委員を委嘱し、行政職員・地域住民・有識者を構成メンバーに、2ヵ月毎に開催しています。利用者の様子や行事・地域との関わり・外部評価などの報告を通し、質の向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当職員の指導により、町とホームの通知・連絡・報告などの全てはメール交信とされ、実態を共有する場面作りが不足しています。昨年9月に町主導で「余市町グループホーム協議会」が組織され、町担当者と協働関係の深まり、連携体制がスタートしました。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には、利用者の生活の様子や健康状態について報告し、来訪が少ない家族には通信で連絡しています。緊急時は電話連絡し、私信を書き込んだ「こもれびだより」を毎月発行しています。家族には毎月の費用を持参していただき、絆を深めるよう促しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口には、国保連合会や行政の苦情申し立てのポスターを掲示し、関係書類にはホームと公的機関の苦情相談機関を明示しています。日常的に気軽に話してくれる雰囲気作りに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時からの離職者は管理者と計画作成者の2人で、利用者と職員は馴染みの関係が築かれています。管理者は職員との飲食・会話の機会を多く持ち、良き相談相手となり働きやすい職場環境に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定には職員の育成方針を定め、採用時研修と経験に応じた研修を行なっています。年間研修計画により経験に応じて外部研修に参加し、今日的課題を中心にミーティング時に内部研修を行なっています。	○	職員は経験に応じた外部研修を年間研修計画をもとに参加していますが、研修を通して得た知識・技能を職員全員に還元できるように、研修報告や研修資料の閲覧など、研修システムの検討を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の小樽市のグループホームとは、利用者の作品交換を通じた交流を行なっていますが、ぶどう狩りや動物園などの外出行事の合同実施を始め、職員の研修・交流が検討され、サービスの質を向上させる取り組みが計画中です。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	町担当者や病院の相談員から入居相談の連絡を受け、ケアマネジャーが訪問と共にホームの見学を進めています。入居決定は家族が行ない、個別の調整後に本格的な利用開始に至っていますが、利用者の安心・納得が十分でない場合が多く、入居後の職員による1対1の対応を通して馴染みの関係作りに努めています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	縫い物・家事など得意分野での力の発揮や生活体験をもとにした教え・励ましの場面を通して、助け合い・分かち合い・支え合いの関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをもとに日常会話や家族からの情報などを総合し、ミーティングで利用者本位に検討・把握・共有を図っています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員によるアセスメントの内容をもとに、ケアカンファレンスを行ない、利用者がどうしたいかを利用者本位に判断し、長期・短期目標の設定と支援内容を検討しています。ケアマネジャーが纏めた介護計画を家族に送付し、来訪時や電話で話し合い確認をいただいています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の支援内容と日々の記録を連動させ、毎月のミーティングで全利用者を対象にモニタリングを行ない、利用者や家族の状況変化に応じた介護計画を作成しています。定期的見直しは3ヵ月を単位に行なっています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況により、かかりつけ医の受診や理美容院への送迎を始め買物や墓参りなど、柔軟に自主サービスを行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関により週1回の往診と入居前からのかかりつけ医に月1回の受信により、健康管理が行なわれています。双方の医師同志はホームが中心となり連携を図っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、「身体急変時に関する同意書」をもとに利用者・家族に説明し、署名・捺印をいただいています。状態変化に応じて家族・医師・ホームの3者で話し合っていますが、医師の勧めにより入院の処置が取られています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないよう日常の言動に注意を払っています。引き続きノートはイニシャルを使用し、書類の個人名は利用者の目につかぬよう注意すると共に、関係書類は事務所のロッカーに保管しています。尚、個人情報の提供については、家族より同意書に署名・捺印をいただいています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、利用者にとってできる事・できない事・無理と思える事など、状態や希望にそって柔軟に支援しています。		

余市町 グループホーム こもれび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連作業には、利用者の方に応じて参加していただき、食事はテレビを消し静かに職員と一緒に食べ、楽しい一時になっています。夏の好天時には玄関前に簡易食卓を用意し、昼食やおやつを始め、焼き肉・流しソーメンなど楽しんでいます。利用者の希望を取り入れて外食も行なっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日入浴ができますが、できるだけ1日隔ての入浴を進めています。入浴を拒む場合は人・言葉を替えて進めています。無理強いはせず清拭などを行なっています。湯の温度を好みに調整し、入浴を楽しめるよう支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や力を踏まえ、食事の一連活動・洗濯物畳み・モップ掛けなど、役割の場面作りを行なっています。また、散歩・買物・ドライブや玄関前の外気浴・外食、近所の庭見学など、利用者の希望を取り入れた楽しみごとや気晴らし支援を行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・近所の庭見学・買物などの外出支援のほか、旅行・ぶどう狩りなどの外出行事や個別性の外出など、戸外に出る機会を多くし、五感刺激が得られるよう支援しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さを理解し、日中玄関は施錠していません。利用者の不意の外出には、職員が後に着いて歩き支援しています。また、運営推進会議を通して地域の方々の協力をお願いしています。		

余市町 グループホーム こもれび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導と自主訓練による昼の火災を想定し、年2回の避難訓練を実施しています。災害時には近所からの応援をいただけるように話し合いが行なわれています。	○	地域性から考えられる様々な災害に対し、季節や昼夜を想定した避難訓練を消防署・警察署の指導と地域住民の方々の協力をいただいて、年間を通じた訓練が望まれます。また、災害に備えて食料・飲料水・防寒用品などの準備を期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配業者から一括購入し、栄養士により1日1300カロリーを基準に栄養バランスと彩りを考え提供しています。食事・水分量は記録をもとに職員全員が共有し、調整しています。利用者の状態に応じた形状で個別支援も行なっています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂を中心に台所・浴室・トイレが使い易く隣接し、居室の広い窓からは、果物畑が広がり四季折々の景色と季節感が楽しめます。共用空間の温湿度調整・換気・空調・音の大きさ・光の強さなどは共に適切であり、居心地よい空間がつくられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家具の配置、利用者の作品や懐かしい写真などを飾り、利用者にとって居心地よく過ごせる場所になっています。		

※  は、重点項目。